

きんぐにんにく

水巻町



きんぐにんにくでまちおこしをしている野坂時夫さん（水巻町商工会副会長・野坂建設社長）

阪神大震災から「ゆめ育土」

「倒壊した道路や建物、たくさんの方が人、それはもう言葉にできないような壮絶な光景でした。いまでも当時のことを思うと胸が痛みます」。11年前の阪神大震災のときに、ボランティアとして現地で活動した野坂さんは話します。「そして空は煙だらけでした。それを見たときに、自然のため、環境のために何か出来ることは無いかなと考へ始めたんです」。

その後、そのときの気持ちを行動に移すため、解体木くず限定の産業廃棄

物処理を請け負うようになりました。

「当時はダイオキシン問題が大きな社会問題になっていて、産廃処理というとみんな顔をしないときでしたね。でも、周りの方々のご理解のおかげで、焼却炉を建設することができました。そのうちに、国土交通省から「河川敷の刈った草を引き取ってくれ」と依頼がありまして、焼却処分するだけでなく、それを何かに利用できないかと考えて出来たのが「ゆめ育土」なんです」。

「ゆめ育土」とは、小さく砕いた草に発酵促進剤を混ぜて、1年半から2年ほど発酵させて作った土壌改良材です。肥料や連作でやせてしまった土を元気にする効果があるそうです。



ゆめ育土

きんぐにんにくと町おこし

環境のために考え出した「ゆめ育土」。その過程で野坂さんは大きな出会いをします。

「今から4年くらい前になるんですが、環境問題とおして、日本樹木リサイクル協会の副会長で、木材会社社長の飯森さんと出会ったんです。山口県の人なんです。その飯森さんがきんぐにんにくを作っていて、「おっ、これだっ！」って思いましたね」。当時、町の商工会では町おこしと次

代を担う経営者の育成

のために「チャレンジシロップ夢工房」と「農産物直売センター」を、町内に作ろうと計画していま



農産物直売センター

「でも、水巻町にはこれといった特産品がないでしょう。『水巻の夢工房に行ったらこれが買える』っていう目玉が無いんです。だから、ゆめ育土を使ってきんぐにんにくを作る、そしてそれを夢工房で売れば、これはいい町おこしになるの野菜と違って、にんにくは保存もきくし加工もできる。色々と応用ができますからね」と野坂さん。

そこで、野坂さんはきんぐにんにくを作るために、元々の生産者の飯森さんと話をしました。

「飯森社長と私とは環境問題についての考え方が同じで、話をしているうちにとても仲良くなりましたね、きんぐにんにくの話をしたときも、快く承諾してくれました」。

こうして、4年前から野坂さんのきんぐにんにく作りと町おこしが始まりました。

だんだんと広がるきんぐにんにく

にんにくの植え付けは10月中旬ごろ、収穫は6月上旬です。現在、きんぐにんにくは、下二の畑など約900坪で栽培されています。昨年は2トントラックいっぱいも収穫できたそうです。

「きんぐにんにくを初めて見た人はビックリしますよ。まるで玉ねぎみたいってね」。野坂さんはうれしそうに話します。

「今は、商工会の女性部やいも娘会といった人たちが、このにんにくを使ってドレッシングや味噌、しょうゆなどを作っています。お中元などでも東京や岡山から注文が入ってきていますね。でも、このきんぐにんにくでの町おこしはまだ始まったばかり。いつかは、きんぐにんにくといえば水巻町と言われたいですね。まあ、商売的には採算が合わないですがね」と笑う野坂さんの顔はとても楽しそうでした。



きんぐにんにくを使ったドレッシングなどの商品

●問い合わせ 水巻町商工会（☎201局7551）